学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【公民／倫理】

１．**対象**（全日制の課程・３年生・39人）

３年自由選択であるため、興味を持って本科目を選択しており、授業に対して意欲的な態度で臨む生徒が多い。反面、あまり深く考えずに本科目を選択した生徒もいるため、落ち着きがなかったり、無気力な姿勢で授業に参加したりする生徒も見受けられる。ただし、対話的な学習を前向きに受け止めており、協働的な取組が期待できる集団である。本集団は政治に対する興味が低く、本単元において対話的な学習を通して主権者としての自覚を促したい。限られた時間で対話と思考を充実すべく、積極的にICTを活用する。

２．**単元名**「　民主社会における人間の在り方　」（全６時間）

３．**単元目標**

一人ひとりのものの見方や考え方、価値観は多様であり、価値観を尊重し合うことが民主主義の重要な前提であることを理解し、自己の価値観を確立することと他者の価値観を尊重することの大切さを自覚することをねらう。特に、知識基盤型社会を迎え、近未来には産業構造も大きく変容すると予測される中、社会の在り方も大きく影響を受けると考えられる。このような状況を踏まえ、将来を拓き社会を担う主権者としての自覚を促したい。先人達の取り巻く政治状況と現代は大きく異なるが、社会契約説に至った叡智を学ぶことは、未知なる状況においても自分自身の考えを持って判断し、将来を切り拓いていく意義を知ることのできる端的な単元と言える。

４．**本時の目標**

・社会契約説に託された人権や幸福追求について考察し、自らが考える望ましい社会のために、政治との関わり方を自己の在り方とともに表現する。（思考・判断・表現）

・ホッブズ・ロック・ルソーに係る思想を、対話によって比較・統合し、他者の考えに触発されることで自己の考えが変容したり、自己の主張の論拠が強くなったりすることを経験しながら、自己の主張を論理的に表現することができるようになる。（思考・判断・表現）

５．**授業展開**

解決したい課題や問い
皆さんが社会人として活躍する頃、産業構造の大きな変化に伴い社会も大きく変わる可能性があります。「未来の社会をよりよいものとするために、社会とどう関わるべきか」、その一つの方法として、皆さんが政治に対して関心を持つことが挙げられます。皆さんが政治に対して関心を持ったり行動したりすることには、どのような意義があると考えますか。

考えるための材料A	**考えるための材料Ｂ**	**考えるための材料Ｃ**
ホッブズ・ロック・ルソーの思想についての解説と原典を、思想家名を明示せずに提示し、どの思想家に関連する資料かをマッチングするという材料。	「ドゥルーズ『追伸－管理社会について』」では、為政者の意志に基づいたり、一般意志に基づく合意であったりする社会契約ではなく、最適解や合理的な数値で支配されるという問題提起を含んだ材料。	ヴァイマル憲法下で、大衆の支持を得て、ナチス党が勢力を伸長させ、政権を樹立している。近代立憲国家においてもファシズムを産む危険性を示唆した材料。
想定される活動	**想定される活動**	**想定される活動**
●時代背景や思想的特徴を捉え思想家を思考、判断する。 ●判断に迷う場合は、重点的に調べたグループ員を軸に協働的な学びを展開する。	●ドゥルーズの主張は、現代から近未来において、社会契約説で説かれる責任を持つ主権者ではなく、合理的な数値に基づくものの、主体が曖昧なものの管理下におかれる状況に気づく。	●民主主義において、社会契約論が完成度の高い思想としつつも、ドゥルーズの主張や立憲国家におけるナチスの伸長から、生徒自身の政治的参画の意義について表現する。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法

【マッチング活動】(15 分)

考えるための材料 A を読み解くため、反転学習として事前に学習した思想家一人を重点的にグループメンバーに説明する。 グループ内で判断に迷う場合は、他のグループとの意見交換を促す。他者の意見から多様な見方や考え方を比較･統合して思考する。

【グループ協議活動】(10 分)

マッチング活動を終えたグループから、既習の学習を踏まえつつも、新たな社会の考え方について議論をする。既習した先人達の取り巻く政治状況と現代は大きく異なるが、社会契約説に至った叡智を踏まえ、未知なる状況において考察する意義について気付きがある。

【論述】(10 分)

マッチング活動やグループ協議活動による話し合いを踏まえ、考えるための材料 B・考えるための材料 C を読む。その後、教員が提示するメインテーマ(学習課題「皆さんが政治に対して関心を持ったり行動したりすることには、どのような意義があると考えますか？」)とルーブリックを示しつつ、自らの意見を記入させる。

思考のプロセス

【複数論拠にもとづく自信を持った主張】

それまで持ち得ていなかった新たな視点を含む複数の論拠にもとづき、自信を持って主張し合ったり、互いに質問し合ったりすることができるような話し合いを引き出す。

【多様な見方・考え方に基づく判断】

「解決したい課題や問い」について、自分が既に持っている情報に加え、他者の意見など多様な見方や考え方を比較・統合して考えた上で、自らの判断を行い、根拠をもって説明する。

【新たな課題への気付き】

本時の授業展開で学んだ学習内容をもとに、新たな課題に向き合う中で、より自分の考えが整理され、新たな課題を発見する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

●漫然と選挙に行くのではなく、積極的に社会を学び、有権者としての権利を行使することが重要である。
●管理社会に進むことが予想される中、人々がきちんと考えて行動することが求められる。
●市民がきちんと政治に関わらないことが取り返しのつかない社会をつくってしまうおそれがある。

育成すべき資質・能力三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識・技能	・反転学習した「ホッブズ・ロック・ルソー」を踏まえて、社会契約の思想に係る知識を関連付けながら、材料Ａ、Ｂ、Ｃを読み解く。 ・各資料の要点を挙げ、整理できている。
②思考力・判断力・表現力	・各資料における課題について 、「順序立てる」「比較・統合する」「具体例「新たな課題を示す」などして、根拠に基づいた主張を展開している。 ・「シチズンシップ」の観点を踏まえた判断がなされている。
③主体性・学びに向かう力 協働性など	・次単元以降につらなる「平等」や「正義」「実存」といった問いへの学びに向かう。 ・仲間との対話が、新しい考えを生み出す契機となることに気付いている。

授業実践振り返りシート（授業前後）

解決したい課題や問い　「皆さんが社会人として活躍する頃、産業構造の大きな変化に伴い社会も大きく変わる可能性があります。「未来の社会をよりよいものとするために、社会とどう関わるべきか」、その一つの方法として、皆さんが政治に対して関心を持つことが挙げられます。皆さんが政治に対して関心を持ったり行動したりすることには、どのような意義があると考えますか。」

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の 学習状況を把握し、授業設計診断４項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
A さん	国が経済など良くなっていく可能性が高まる。	私たちが政治に関わることで、日本がより暮らしやすい国になっていく可能性が高くなる。そのためには、過去の歴史からも分かるとおり、多数派が100%正確な意見とは言えない。表現の自由を抑圧されたら、批判をしても政治には反映されなくなってしまう。疑いの視点が絶対必要。また、ドゥルーズの管理社会から基準が分からないまま判断されて「安全」を保障している社会に満足してはいけない。政治に関心を持つ人が多いほど、より多数の意見が出るようになる。そこから経済がより発展する可能性や新たな政策などが生まれる可能性が高くなる。国が安定すれば、他国との関係も良くなるはず。
B さん	世界事情についての一般的な知識として必要になる。世間話の中で大人はよく政治について話をするので必要。	ロックの思想では国民は政府に全ての権利を託したわけではないのだから、政府が国民に対して義務を科しているわけだから、国民が政府を監視していく必要がある。ヒトラーやスターリンの例のようなことが、これからおきないとは断言できない。平和であるからこそ、勉強できていることを忘れてはならない。
C さん	政治に関心を持つことでこれからの日本を変えることが可能になるかもしれない。	政治に対して関心を持ったり行動をしたりすることは、自分の意志を持つことができると思う。たとえば、選挙で自分の意見を持たず、なんとなく多数派に投票したとする。しかし、多数派が決して正しいとは限らない。もしかしたら悪方向に向ってしまうかもしれない。しかし、政治に対して自分の意志があれば、多数派の意見に流されず、そして自分の意志を主張することができる。このように、たくさんの人が自分の意志を主張すればやがて議論になる。そうすれば国の判断もより良い方向にむかうと思う。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	・政治参画の意義を考察する大きな問いで、記述しやすく既習内容を反映しやすい。 ・個人の資質によっては、既習内容を踏まえることなく論述が可能である。
考えるための材料	・明治期の国家社会のあり方や社会契約論を政治参画に援用することは難しい。 ・全体主義やドゥルーズを読むことで、既習内容と政治参画の意義をつながる生徒も見受けられた。
対話と思考	・ＩＣＴ活用と反転授業のため、本来1時間では対話や思考が難しいボリュームをこなすことができた。 ・対話の課題は、一定の答えを求めるための対話であり、広がりや深みが足りない。
学習の成果	・対話の課題は、13グループ中12グループが到達でき、ジャンプ課題についても10グループが正答で来たことは一定の成果があった。 ・解決したい課題や問いに対して個人的な考察で留めたため、発展的ではない。

出典：